

# 避難所における トイレの確保・管理ガイドライン

平成28年4月  
内閣府（防災担当）



# 目 次

◆はじめに◆ 東日本大震災で起きたこと	1ページ
I. 現状と課題	
1 災害時の避難所におけるトイレをめぐる問題点 ～繰り返さないで、避難所のトイレ問題～	3ページ
2 トイレの改善に向けた取り組みの必要性 ～平時にやらねば間に合わない、災害時トイレ対応～	5ページ
II. トイレの確保・管理に関する基本的な考え方	
1 災害用トイレの確保にあたって	
（1）トイレの仕組み ～知っていますか、トイレの仕組みとその機能～	6ページ
（2）災害時のトイレを確保する上での制約 ～ライフラインの機能途絶が水洗トイレに影響～	
（3）体制づくり ～災害時トイレの取り組みは1担当課では不可能～	7ページ
（4）計画づくり ～わがまちには一体いくつの災害時トイレが必要か～	
2 災害時のトイレの確保・管理にあたり配慮すべき事項 ～誰もが使える環境を～	8ページ
3 トイレの個数（目安） ～被災者の健康が維持できるトイレの数とは～	9ページ
4 災害時のトイレの種類 ～いくつあるか知っていますか？災害時トイレの種類～	10ページ
5 トイレの衛生管理 ～被災者が協力してトイレを清潔に。市町村は後方支援を～	17ページ
III. トイレの確保のための具体的な取り組み	
1 トイレのモデルケース ～災害時に備えるべきトイレを具体的にイメージしよう～	19ページ
2 災害時のトイレの必要数計算シートの使い方 ～トイレの数を見積もります～	21ページ
3 トイレ確保・管理チェックリスト ～平時から発災後までにやるべきこと一覧表～	24ページ
附属資料 1 ■災害時のトイレの必要数計算シート	28ページ
附属資料 2 ◆避難所運営のための連携協働体制	29ページ

## ◆はじめに◆

平時において排泄物は、トイレを通して汚水処理施設に運ばれて、適切に処理され、臭気や害虫の発生・侵入を抑えることができる。

ひとたび災害が発生し、水洗トイレが機能しなくなると、排泄物の処理が滞る。そのために、排泄物における細菌により、感染症や害虫の発生が引き起こされる。また、避難所等において、トイレが不衛生であるために不快な思いをする被災者が増え、その上、トイレの使用がためられることによって、排泄を我慢することが、水分や食品摂取を控えることにつながり、被災者においては栄養状態の悪化や脱水症状、静脈血栓塞栓症（エコノミークラス症候群）等の健康障害を引き起こすおそれが生じる。

避難所の施設によっては、和式便器のトイレが多く、また仮設トイレにも和式便器が多いことにより、足腰の弱い高齢者や車いす使用の身体障害者にとっては、トイレの使用が極度に困難となる。また、おむつ等の確保も課題となり、脆弱性の高い人たちにとっては、衛生環境の悪化は生命に関わる問題となりうる。

このように、トイレの課題は、多くの健康被害と衛生環境の悪化をもたらし、同時に不快な思いをする被災者を増やすことになり、人としての尊厳が傷つけられることにもつながる。被災者支援の中で、避難生活におけるトイレの課題は、今まで以上に強い問題意識をもって捉えられるべきである。

トイレの課題は市町村（特別区を含む、以下同じ。）における関係部局の連携により、事前の取り組みが進められるべきである。本ガイドラインは、避難生活を支援する行政が取り組むべき事項のうち、トイレの確保と管理に関して指針を示すものである。本ガイドラインに沿って、適切な仕組みを整えることが求められる。また、市町村においては、本ガイドラインを参考に災害時のトイレの確保・管理計画を作成し、その計画を実効性のあるものとするため、地域防災計画等に反映させることが求められる。

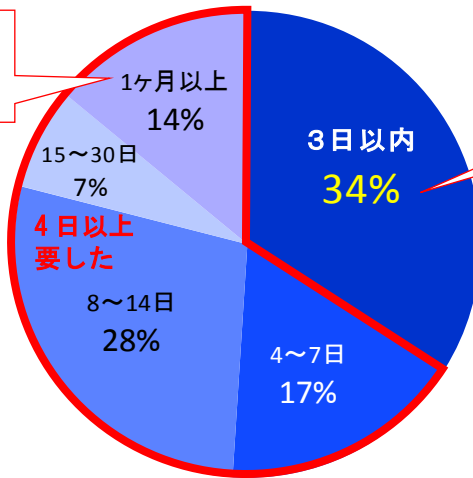
本ガイドラインに沿った準備と対応が進み、過去の災害において発生したトイレの劣悪な環境が改善されることを強く期待する。

仮設トイレが来ない～仮設トイレが被災地の避難所に行き渡るまでに要した日数～

最も日数を要した自治体は65日であった。



仮設トイレが到着するまでの間、避難所生活者のために作られた素掘りのトイレ  
写真：日本トイレ研究所

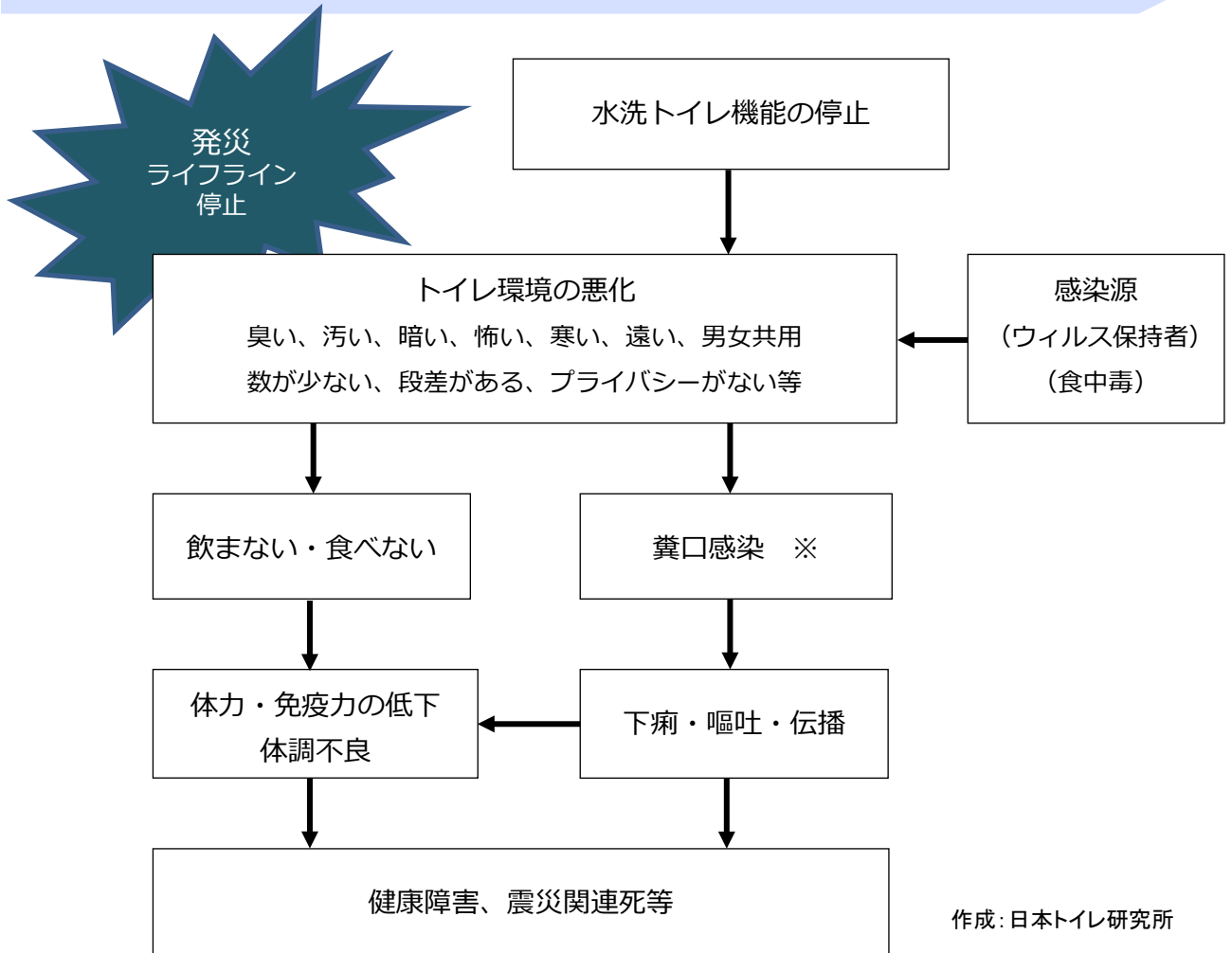


3日以内と回答した自治体はわずか**34%**

(アンケート調査)

- 実施：名古屋大学エコトピア科学研究所 岡山朋子
- 協力：日本トイレ研究所
- 回答：29自治体（岩手県、宮城県、福島県の特定被災地方公共団体）

トイレ機能の停止の影響



作成：日本トイレ研究所

※糞口感染：手洗いを全くしない等の不潔な行為によって、腸管出血性大腸菌やウイルス等を含んだ便が、手や指を介して口に入ることによって感染すること。

# I. 現状と課題

## 1 災害時の避難所におけるトイレをめぐる問題点

災害時には、仮設トイレがすぐに避難所に届くとは限らず、避難者数に比べてトイレの個数が不足することがありうる。平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災においては、発災から数日間で、トイレが排泄物の山になり、劣悪な衛生状態となったところも少なくない。

また、トイレの設置場所が暗い、和式トイレである、段差がある等の問題により、高齢者、障害者、女性、子供等にとって使用しにくいものもあった。

このことから、トイレの使用を減らすために水分や食事を控えることとなり、被災者の心身の機能の低下や様々な疾患の発生・悪化が見られた。

### 震災後における避難所等のトイレ



東日本大震災

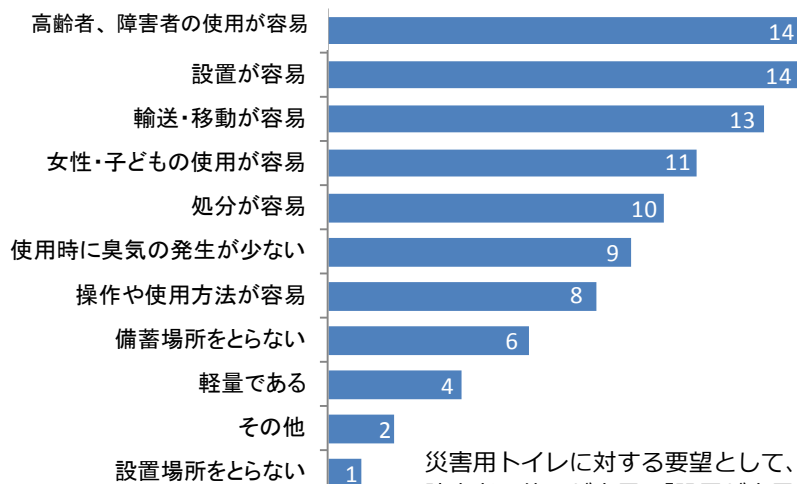


阪神・淡路大震災

水が流れないトイレを使用したら、あっという間に便器内は大小便の山になってしまう。東日本大震災で津波被害に遭った地域ではこのようなトイレが数多く見られ、到底使用出来る状況ではなかった。

### 災害用トイレに対する要望

調査：日本トイレ研究所「災害用トイレ・衛生環境に関するアンケート調査 2012 年」  
(回答：29 自治体)






仮設トイレの多くは和式トイレ  
止むを得ずイスの座面をくり抜いて応急的に工夫した事例（↓写真）



災害用トイレに対する要望として、最も多くあげられたのが「高齢者、障害者の使用が容易」「設置が容易」であった。また、「女性、子どもの使用が容易」という要望も 4 番目に多かった。

## 過去の災害時の状況

1. 阪神・淡路大震災（平成7年1月17日発生）	
状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路網の分断や極度の交通渋滞により、他都市等から提供された災害用トイレの設置に手間取った。</li> <li>神戸市内の水洗化率（下水道接続率）が約97%と高く、バキューム車の保有台数が20台程度であったため、<b>し尿の汲み取り体制が不十分</b>であった。</li> <li>直後の市町村の災害対応においては、水、食料、毛布、医薬品の確保が優先された。<b>トイレの対応は後回し</b>となり、避難所に災害用トイレが設置されたのは早いところでも3日目以降となり、中には11日目に設置されたという事例もあった。</li> </ul>
2. 新潟中越地震（平成16年10月23日発生）	
状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害用トイレは100人に1基の割合では、<b>数が足りない</b>という苦情が多くあった。</li> <li><b>トイレが不安で水を飲むことを控えた</b>とする人は小千谷市で33.3%、川口町で13.8%にのぼった。</li> <li>死者60人のうち半数近くが関連死といわれている。ストレスや不眠、集団生活による感染症等も原因と考えられる。トイレを我慢したことも一因となっている。</li> </ul>
3. 新潟中越沖地震（平成19年7月16日発生）	
状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>新潟中越地震（H16.10.23）で被害を受けて修繕した下水道（管渠やマンホール）は損壊がなく、その時に被害を受けていない下水道の損壊が多かった。</li> <li>発災直後に職員が駆けつけ、水洗トイレの利用を禁止し、備蓄してあった簡易トイレ・携帯トイレ、そして消毒液とウェットティッシュの利用を指示した。このような素早い対応は効果的であった。</li> </ul>
4. 東日本大震災（平成23年3月11日発生）	
状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>発災当初は寒さが厳しく、屋外に設置された災害用トイレの使用は困難であった。</li> </ul> <div style="text-align: center;"> <p>屋外に設置された災害用トイレ</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>トイレの数もバキューム車も不足</b>していたため、汲み取り式のトイレが多数使用不可能になった。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>汲み取り型のトイレ (仙台市)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>汲み取り作業の様子 (仙台市)</p>  </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>組立トイレとセットで使うテントは、備蓄や持ち運びが容易であるが、屋外に設置した場合<b>強風により転倒した例が多数</b>あった。</li> </ul>

（出典）「避難所等におけるトイレ対策の手引き」（兵庫県）